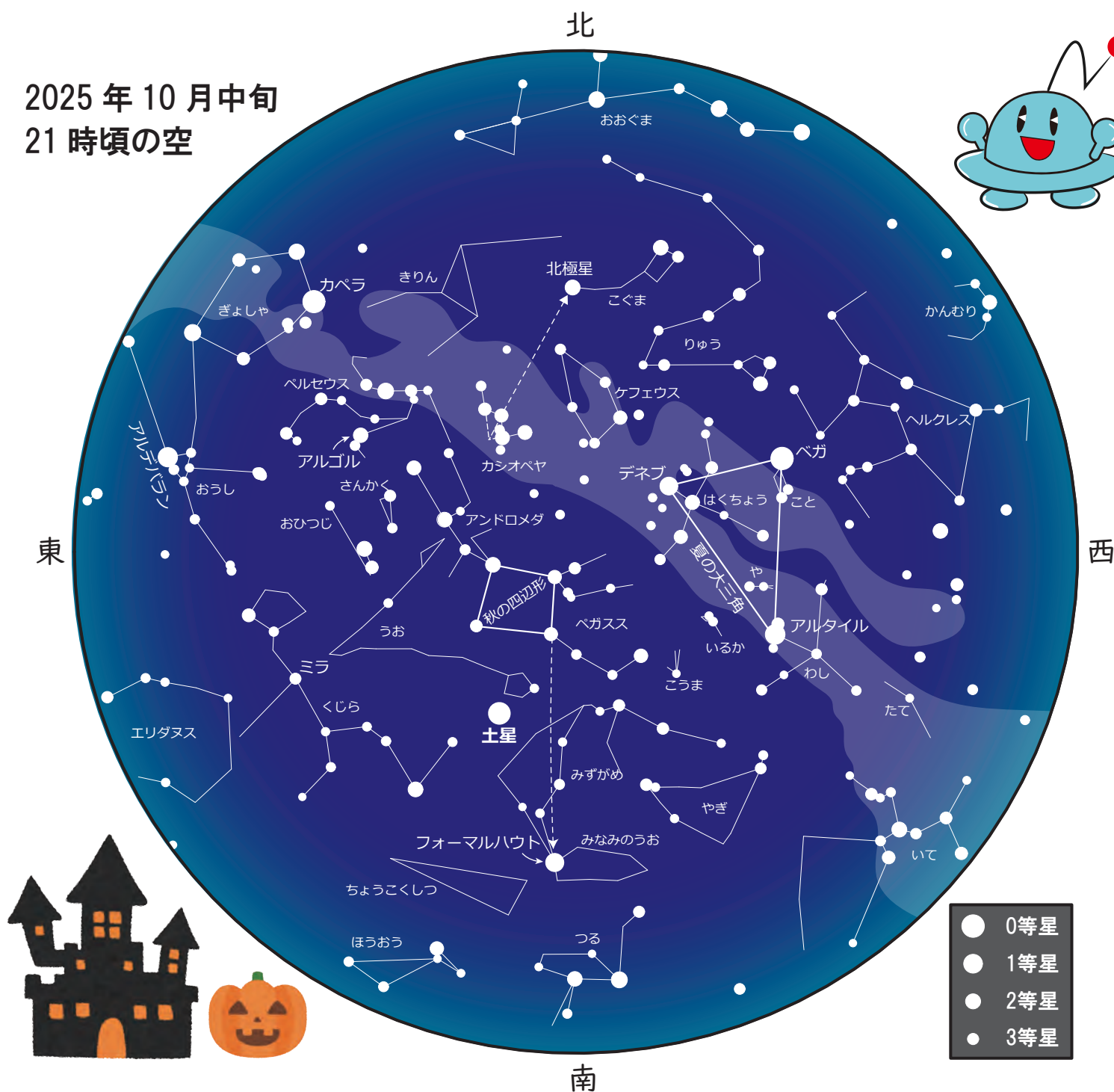
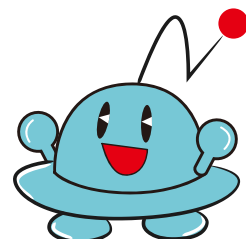


阿南市科学センター

10月の星空案内

2025年10月中旬
21時頃の空



10月の夜空を見上げてみると秋の星座が南の空で輝いています。南の空ですぐに見つけることができる四角形が**秋の四辺形**です。秋の四辺形を見つけれたら、そのうち西側にある二つの星をつないで南の低い空に向かって線をのばしてみると秋唯一の一等星、**フォーマルハート**（約1.2等）を見つかることができます。フォーマルハートを見つける過程で1つ明るい星とすれ違ったかもしれません。これは惑星の仲間、**土星**（約0.8等）です。いまは土星が観測しやすく、その環もはっきりと観察ができます。土星の環を見るには天体望遠鏡が必要になってきますが、もし家に無いと言った方は当館の天体観望会では土星を毎回四国最大の望遠鏡で観察していますので是非ご参加ください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター

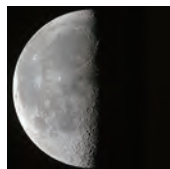
電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

10月の月の満ち欠けと惑星について



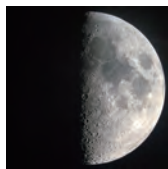
満月
7日



上弦
30日



新月
21日



下弦
14日

天体観望会で
月が見えるおすすめ日時は？



10/4 (土)
全ての回で観察可能

水星：下旬に日没後西のごく低空で見える。(30日に東方最大離角)【約 -0.1等】

金星：明け方、東の低い空で明けの明星として見える。【約 -3.9等】

火星：日没後ごく低空で見えるがすぐに沈む。【約 1.5等】

木星：後半夜から昇り始め、明け方まで見える。【約 -2.2等】

土星：日没から明け方にかけてほぼ一晩中見える。【約 0.8等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。(水星のみ30日の明るさ)



次回の皆既月食は
来年の3月3日、
19時前からだよ！



皆既月食中の月の様子
(2025年9月8日撮影)

注目の天文現象

【レモン彗星が約4等まで明るくなる】

アメリカ、アリゾナ州にあるレモン山天文台で今年1月に発見されたレモン彗星 (C/2025 A6) が10月末に約4等まで明るくなると予報されています。4等なので肉眼で見えるのは厳しいですが、ある程度空が暗い場所だと双眼鏡を使えば観測が可能になります。この彗星は非周期彗星に分類され、一度太陽に近づいて離れるともう戻ってくることはありません。そんなレモン彗星は10月21日地球に最接近し、もっとも明るく輝くと予報されています。この日は新月かつオリオン座流星群が極大日をむかえる、といった天文ファンにはせわしない一日となるでしょう。レモン彗星は時期によって明け方は東に、夕方は西の空に見つけることができます。それぞれの時間帯に浮かぶ星座をたどって、この彗星を探してみてください (図1,2)。

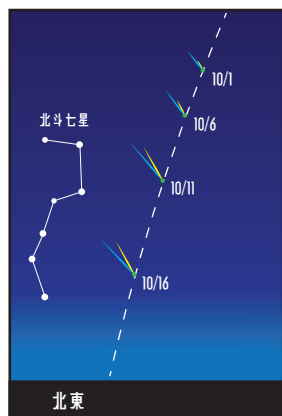


図1 (左) 明け方の空に見える星座とレモン彗星の位置関係
(星座は10月16日4時30分頃の位置)

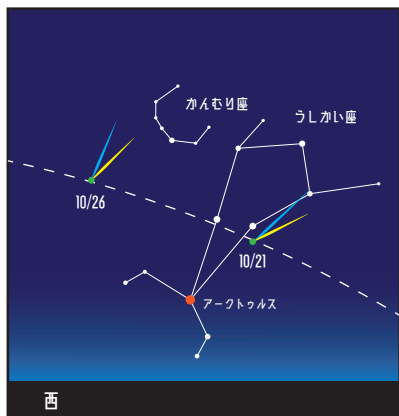


図2 (右) 夕方の空に見える星座とレモン彗星の位置関係
(星座は10月21日18時30分頃の位置)
※図はステラナビゲータをもとに作成

【オリオン座流星群が極大をむかえる】

オリオン座流星群が10月21日の21時と、とても観測しやすい時間に極大をむかえます。加えてこの日は新月であることから、月明かりの影響を受けないため、流星群を観察するには最高の条件がそろっています。とはいえ、オリオン座流星群は三大流星群と比べると、流星の数は少なく、かなり暗い空で1時間に5~10個ほど見つけれられる程度です。そのため、流星を観察したい場合は、できるだけ家の明かりや街灯の明かりが少ない場所で観察しましょう。また、流星はいつどこで流れるかもわかりませんので広くまわりが見渡せる場所で空全体を見て観察しましょう。ちなみにオリオン座流星群の母天体は、かの有名なハレー彗星。この彗星がなんと3000年以上前に残した小さなチリが流星となって地球に降り注いでくるのです。

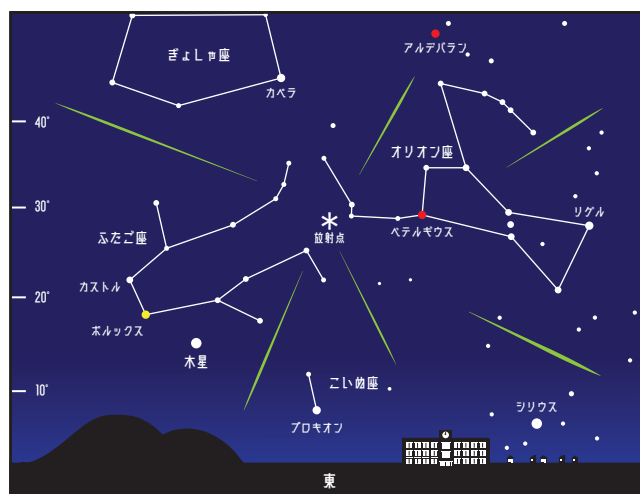


図3 オリオン座流星群の放射点とそのまわり
(2025年10月21日24時頃の阿南市の空)
※図はステラナビゲータをもとに作成